

5 5年生の実践

(1) はじめに

5年生は、男子15名、女子10名、計25名である。算数の表現・処理能力や意欲面等の個人差は大きかった。副教材アイテムの基礎的な問題は全員が集中して取り組むが、発展的な問題になると手のつかない児童も多かった。そこで、発展的な問題をグループで解決し、班の中で教え合い、全員が説明できるようにすることで、問題解決の糸口が分かるとともに、理解が深まり個別学習にも生かせると考えた。また、今後も分からない問題があっても教え合うことができると考えた。

(2) 授業の実践例

授業の視点

発展的な問題演習の場面において、少人数グループで問題解決し、解き方を全員が説明できるように話し合うことでより理解を確実なものにでき、筋道立てた考え方が個別学習でも生かせるであろう。

① 単元名 垂直と平行

② 本時の学習

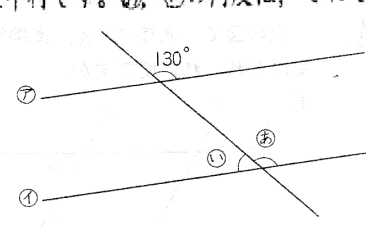

(ア) ねらい

- ・平行線と交わる直線のつくる角の（錯角・同位角）の発展的な問題を、筋道立てて考え解決できる。

(イ) 評価の視点

- ・平行線と交わる直線のつくる角の（錯角・同位角）の発展的な問題を、既習の学習内容を生かし、解決しようとしている。【関心・意欲・態度】

(ウ) 展開

学習活動	時間 (分)	指導上の留意点・支援		評価項目
		T 1	T 2	
<p>課題1 右の図で、直線⑦と⑧は平行です。⑥、①の角度は、それぞれ何度ですか。</p>  				
<p>【一斉学習】 1,前時の学習内容の問題を解く。 ・平行線の錯角・同位角は等しいことを確認する</p>	10	<p>・廊下側の児童を中心に個別指導をする。 (以下、個別指導の際は分担して行う) ・答えを確認する。 ・平行線の錯角・同位角は等しいことをおさえる。【錯角・同位角の名称は伝えない】</p>	<p>・窓側の児童を中心に個別指導をする。</p>	

課題2 (1) 右の図で、直線⑦と⑧は平行です。

① ②, ③の角度は、それぞれ何度ですか。

② ④, ⑤の角度は、それぞれ何度ですか。

(2) 長方形の紙を、右の図のように折り返しました。⑥, ⑦, ⑧の角度は、それぞれ何度ですか。

<p>【グループ学習】 2, グループで課題解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 解決できた問題を筋道立てて説明できるようにする。 T1に対して説明をする。 	20	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決できたグループの説明を聞き、解決方法を確認する <p>【確認のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平行線の錯角・同位角は等しい。 (2)の課題においては、⑥の角度が 35° であること。 <p>・課題2が解決できたグループ課題3を個別解決するように指示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> つまづいているグループを中心に支援する。 <p>【支援のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 角度がわかったところには数値を記入させる。 (2)の問題については、具体物を与え考えさせる。 	<p>【考】 筋道立てて、説明できる。</p>
--	----	---	--	------------------------------------

課題3
次の図で、直線⑦と⑧、直線②と③は、それぞれ平行です。④, ⑤の角度はそれぞれ何度ですか。

①

②

長方形の紙を、次の図のように折り返しました。⑥, ⑦の角度は、それぞれ何度ですか。

③

④

<p>【個別学習】 3, 練習問題を解く</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> 解答は黒板に掲示し、各自で答え合わせできるようにする。(課題3が終わった子には発展的な問題を与える。) 自力解決できない児童には、グループ内で相談することも可とする。 	<p>【関】 既習の学習内容を生かし、解決しようとしている。</p>
-------------------------------------	----	--	---

(3) まとめ

発展的な課題をグループで解決させたことは、今まで解決の糸口がつかめない児童にとって課題解決の糸口がつかめたようであった。課題解決できた児童にとっても班員に説明することで理解を深めていたようである。また、「T1に説明する」ことは、筋道立てて考えるために効果があったと考える。授業後も、「楽しかった。またグループでやりたい。」との声もあった。

(4) 今後の課題

- ・アイテムの問題を授業で取り上げることは、子どもたちの知的好奇心を刺激するのに効果的であったが、年間の授業時数を考えるとこのような学習ばかりしてはられない。単元のまとめにアイテムを活用しながら児童同士で分からない課題を一緒に考えたり、教え合ったりしながら理解を深めていけたらと考える。